

「周年事業」にみる100周年の軌跡

渉外委員会

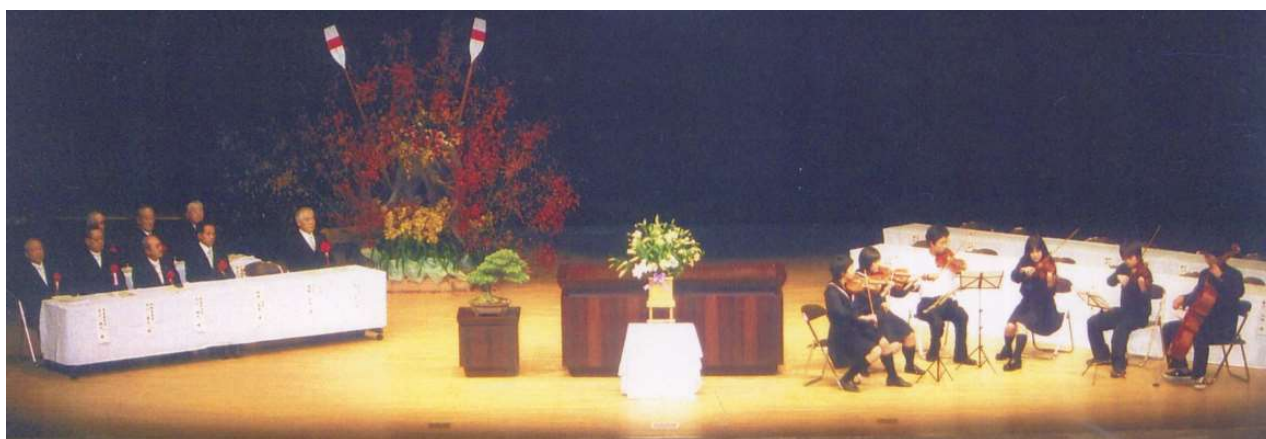
城陵会(恵那高等学校同窓会)でこれまでに行われてきた周年事業についてご紹介します。

第5回 平成14(2002)年「創立80周年の記念式典・行事」

記念事業は、記念式典、記念誌及び同窓会員名簿の作成、記念祝賀会とされ、このとき全国に先駆け実施して来た5年目となる「恵那高校の総合学習」、「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」指定の前段階「サイエンスパートナーシッププログラム(SPP)」を推進する中で得られたノウハウを生かした式典を目指しました。それを「恵華」第21号の同窓会ページによりご紹介します。

創立80周年記念式典

11月10日(日)約2年にわたって計画され準備された記念式典は、前日の肌寒い曇天とうって変わって爽やかに晴れた秋空のもと、恵那文化センターをメイン会場として、予定通り実施された。



生徒による弦楽演奏

式典へは、早くから多くの参加者が見込まれ、恵那高校体育館と、電話回線を使ったテレビ会議システムで2会場を中継して行われた。メイン会場の文化センターには約500名の卒業生と3年生280名の生徒でほぼ満席の状態だった。



3人による座談会

式典は9時30分、音楽部生徒の歌う「城陵歌」によって校旗が入場し、これまで、人生を全うされ、あるいは志し半ばで亡くなられた御霊に黙祷を捧げて始められた。

柘植章実行委員長の式辞、齊藤宜昭校長の挨拶、本校の元校長伊藤秀幸先生をはじめとする歴代の校長先生、歴代の同窓会長、PTA会長や永年勤続の先生方などの功労者表彰に続いて古屋圭司衆議院議員をはじめとする各界の祝辞などで、約90分にわたる式典も無事終了した。



草野満代 さん



基調講演の末松安晴 先生、鈴木正昭 先生



休憩の後、記念講演が行われた。末松安晴、鈴木正昭両先生の講演、さらに草野満代キャスターが加わり和やかに座談会が行われ、最後は第2会場の恵那高校体育館からの質問時間が足りないほどだった。



生徒による受付

なお、この式典へ恵那中学第1回生の岡本丑雄さんが高齢にもかかわらず遠く横浜から駆けつけ、紹介されると、会場から大きな拍手が起こった。

今回の式典運営には、生徒が受付、接待、駐車場の係や司会進行、BGM演奏まで務め、参加者からさすが恵那高生だと感心され、お褒めの言葉をいただいた。

記念祝賀会

80周年式典の後、記念祝賀会が恵那峡グランドホテルの会場で、午後2時から行われた。今回の記念事業を実行するに当たって、骨身を惜しまず努力された、柘植実行委員長はじめ各推進委員長さんへ、斎藤宣昭校長から感謝状が贈呈され、各卒業期校旗の授与が行われた。阿部前同窓会長の乾杯の音頭で始まった宴は、城陵歌・応援歌を歌う頃に最高潮に達した。羽織袴にハチマキ姿の応援団長の号令で、応援歌を歌う姿は、遠い昔の学生に立ち返った想いだった。

この祝賀会は、五千円会費で行われ、約二百三十名の出席者があった。



「恵那高校の総合学習」は平成30年度からは「総合探求」としてリニューアルし、次世代を生き抜く力を育み、新しい大学入試に対応する大きな力として開花しています。また、SPPは平成16年度岐阜県で2校目となるSSH指定を受けることに繋がり、現在4期目の指定を得ています。

80周年記念事業はこのように時代の要請に答え、更に21世紀を生きる生徒を支え、そして恵那高校創立100周年をどのように迎えるかを問う事業であったと思います。